

新入生諸君へ

医学部長 原田康夫

新入生の諸君、入学おめでとう。
 ベビーブームピークの時期の受験生である
 諸君が、難関を通り抜け医学部に入られたこ
 とを我々は心から歓迎する。

医学部には諸君に少し遅れて新たに保健学科
 に一〇名も入学してくる。今年より、我が医
 学部は医学科、総合薬学科に保健学科が加わり、
 総勢二八〇名の入学生となるわけで日本で最も
 学生定員の大きい医学部となる。今は量より質
 の時代といわれる時であって、我が医学部も規
 模の大きさを誇るだけでなく、将来、質的にも
 日本一になるように諸君とともに大いに努力し



医学部基礎研究棟（前方右）および
 総合薬学科研究棟（後方左）

てゆきたいと思っている、諸君に期待するもの
 大なるものがある。今日、医療の世界は急激な
 進歩を遂げてきており、日本は世界一の長寿国
 となっている。この時期、諸君はまさにこれか
 ら二十一世紀医療の担い手となる人達である。
 先般、臨時脳死及び臓器移植調査会（脳死臨調）
 の答申が出されたが、これから法律等の条件が
 整備されれば、我が国も近く臓器移植の時代に
 突入するであろう。

しかし、脳死の人や、人間から人間への移
 植である関係上、移植医療に従事する人達は
 学問や技術の面で優れているのみならず倫理
 的にも高潔な人達でなくてはならない。そし
 て、「医の倫理」は、移植医療従事者にもち
 ろんのこと、すべての医療従事者に求められる
 ことである。このような時代に諸君は医療
 従事者となるわけで、私は諸君に幅広く、心
 豊かな人間として成長してほしいと思ってい
 る。と同時に、国際性も身につけておかねば、
 これから世界に互に行け行けないであろう。新
 入生の諸君、医学部に入ってから、生命健
 康科学の基礎を学ぶだけではなく、人の心の
 痛みのわかる、豊かな人格の人間として成長
 されることを心より期待している。

熱き心に

医学部5学年

平子哲夫

もう五年前になるが、大阪を離れていよいよ
 広島に出ていく時に父と話をした。「これ
 から大学生活をするうえで何を思いながら生
 活を送ればいい。」と聞くと、父は「何事も
 熱中することだ」と一言言った。その時には
 少し物足りなさを感じたがこの一言が私の学
 生生活を充実させてくれていた。大学はあら
 ゆる可能性と自由の宝庫である。しかし確実
 なものは何もない。人により価値観も生活も
 全く異なる。今の自分に対して自信がなくなっ
 てしまうことがある。そのときにこの言葉が
 私を支えてくれた。何でもよいから身近にあ
 るものをやり始めて一生懸命になってやって
 いれば、必ず仲間や応援してくれる人が現わ
 れ、また次の道が開けてくるものだ。この繰
 り返して今の自分がある。何事も恐れずにま
 ずやってみて、それから考えても決して遅く
 はない。今も父は多くは語らない。しかし私
 の学生生活を心配性の母と共にじつと見守っ
 てくれている。